

NOTE BOOK

名馬ミライ予想ノート

名駅ミライ予想ノート

CONTENTS

P2・・・はじめに

P3・・・仮説1) 名古屋弁が標準語に?!

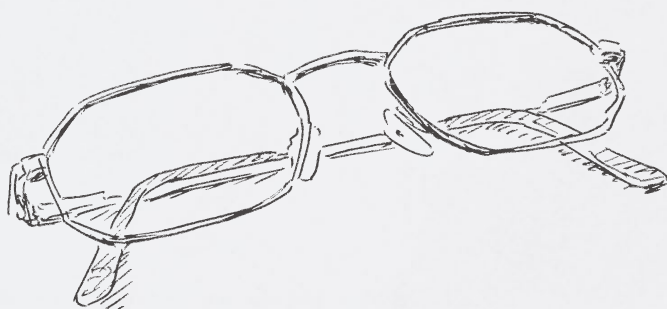
P4・・・仮説2) 週末はシャチホコ天?!

P9・・・仮説3) 観光客数が全国1位に?!

P11・・・仮説4) 名古屋から世界を変える発明が?!

P13・・・仮説5) いっそ首都移転?! ~おすびにかえて~

※本冊子にある「資料編」とは、株式会社 電通 名鉄コミュニケーションズ発行
「名駅データブック 2018」を指すものです。



はじめに

この度、愛する地元・名古屋、
しかも生まれ育った名古屋駅周辺の
未来像についての論考を發表する場をいただきました。
名古屋駅、また名古屋という街についての
数々の調査データから想定外の興味深い事実が浮かび上がり
それをもとに立てた仮説をまとめたものが
この「名駅ミライ予想ノート」です。
未来といっても100年200年先のことではなく、
現時点から10年未満の近未来を予測したに過ぎません。
にもかかわらず、手前みそながら驚くほど
スケールの大きな仮説が立ちあがったのは、やはり、
この街のポテンシャルの高さゆえだと考えます。
近未来へのタイムトラベルを楽しむつもりで、
ノートのページをめくっていただければ嬉しく思います。

名駅ミライ予想ノート 企画・制作

株式会社電通名鉄コミュニケーションズ
「名駅エリアマーケティングラボ」

2027年のリニア新幹線開通に向けて
再開発が進む名駅地区に立地する広告会社、
電通名鉄コミュニケーションズ。
再開発の主役、名古屋鉄道に関連会社という立場も鑑み、
名駅地区の現状、ありたき姿を描くため、
研究を開始する。



仮説1) 名古屋弁が標準語に?!

「リニアメガ地域」誕生へ

僕は名古屋が好きだ。名古屋駅近くで生まれ、名古屋駅周辺を「庭」にして育った。その大好きな街が、大きく変貌しつつある。両親も名古屋生まれ名古屋育ちだが、「こんなたっかいビルがニョキニョキ建つとは、夢にも思ったらなかったわ」と口を揃える。

もちろん、西暦2018年の今、僕から見ても小さい頃とは景色がどえらい変わった。しかしこの先、近い未来へ向かって、この街はさらに加速度的に変わるのだという。(後述するが、名古屋が変わるということは日本が変わるということだ。) 要因となる大きなファクトは言うまでもない。2027年のリニア中央新幹線の開通だ。

夢の超高速鉄道リニアモーターカーがいよいよ実用化され、名古屋-東京間がわずか40分で結ばれる。40分だ、40分。小一時間よりまだ短いじゃないか。朝9時に出たら9時40分には東京。昼3時に出たら3時40分には東京(当たり前だ)。僕の友人の家は春日井市の某ニュータウンにあるのだが、名古屋から1時間半かかる。彼の家よりも東京のほうがめっちゃめっちゃ近くなる。そう、「東京~名古屋」が一体化した「リニアメガ地域」の誕生だ。すると、どうなるか。冒頭の仮説1)が立つのである。

唐突なのは承知している。が、強引かというところでもない、きっと。9年後に迫ったりニア中央新幹線開通に向けて、数々の課題をクリアしていけば。

名古屋駅勢圏のイマ

駅勢圏とは鉄道駅を中心にした半径1km、もしくは700m圏内を指す。駅勢圏を行き来する人や住む人、集まる住宅や企業や店舗などをよくよく見ていくと、駅を中心とするその街の特徴が見えてくる。分析すると名古屋駅勢圏は渋谷駅勢圏とソックリというから驚くが、その話はまた後ほど、お楽しみに。さらに別の分析データ「2017名駅訪問者調査」によると、ビジネスマンの「乗り換え駅」と思われていた我々が名駅が「駅界隈で楽しく過ごすエリア」へと、少しずつ変化している様子が見てとれる。すなわち、名駅でグルメやショッピングを楽しむ人は男性より女性が多く、自分一人より家族などと二人で訪れることが多い。名駅はただの通過ポイントから滞在する場所に、ちょびっとずつ変わり始めている。たっかいビルがニョキニョキ建った再開発の効果は伊達じゃなさそうなのだ。

そして、机は「つる」ものに

話をリニアメガ地域に戻そう。東京と40分で行き来できる。つまり、例えば名古屋の実家にいながら東京の大学に通える。会社もしかり。文化的特性として、名古屋の若者は地元を離れたがらない。東大レベルの偏差値があっても地元のメーダイを選んできた、ただし今までは、だ。今後は優秀な若者が、名古屋に居住したまま東京の大学や企業で大活躍することになる。一方、関東圏に居住する若者にとっても、名古屋のハイレベルな学校や名古屋本社の世界企業に、関東に住みながら通える。優秀な人材がクロスオーバーする、というわけだ。

さらに先ほど述べたように、名駅は通過点から楽しむ場所に変わりつつある。リニアメガ地域が誕生すれば、関東圏いや東日本全域から遊びにくる人々もますます増えることだろう。

名古屋と東京で人的交流が今以上に盛んになった結果、イントネーションが似通い、ボキャブラリーも共通化する可能性は高い。「捨てといて」は「ほかつといて」になり、「水っぽいね」は「しゃびしゃびだがね」になり、「机を少し持ち上げて」という回りくどい言い方は「机つって」で済むようになる。より臨場感があり伝達速度が速い言葉が生き残っていくはずだからだ。

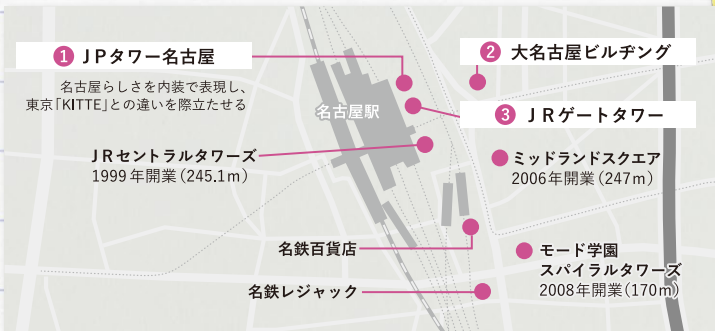
リニアメガ地域

2027年にリニア中央新幹線が開通すると名駅と東京は40分で結ばれ、まさに一体化した「メガ地域」が誕生する。このリニアメガ地域がグローバルな地域間競争に勝利するために、クリエイティブクラス（後述）が好んで居住する高質な居住地域が必要となる。（資料編 P40）



名古屋駅周辺 高層ビル群

駅前エリアに1999年にオープンしたJRセントラルタワーズを皮切りに、2006年にモード学園スパイラルスクエア、2008年にモード学園スパイラルタワーズが新設され、さらに2015年JPタワー名古屋、2016年大名古屋ビルヂング、2017年JRゲートタワーが新設・オープン。名古屋駅周辺が西新宿に比肩する高層ビル街となりつつある。（資料編 P20）



「名駅で飲食・買い物をする人」の名古屋駅周辺での立寄率が特に高いのは名鉄百貨店、エスカ、JRゲートタワー。駅構内やJRセントラルタワーズだけに止まらず、駅周辺でも南北方向や駅西方向に回遊する来訪者の消費が旺盛であることがわかる。（資料編 P24）

駅勢圏とは

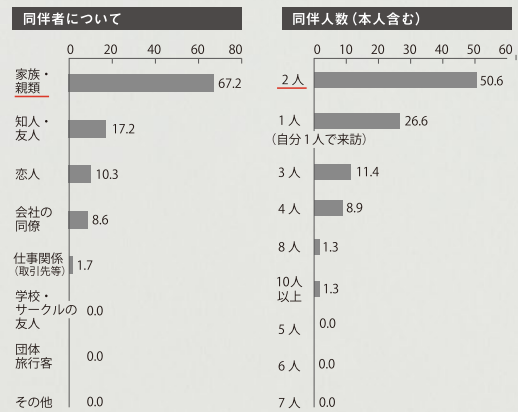
駅勢圏とは、その駅を利用する需要の存在が期待できる地理的な範囲のこと。複数の駅を同一範囲の駅勢圏で比較する際に簡易に設定する場合は「駅から半径1キロ圏」などと設定することも。（資料編 P2）



首都圏・近畿圏観光客 自主調査

名古屋駅周辺で買物や飲食などの消費を積極的に行っているのは女性や若い世代であり、1人よりもカップルやグループで来街している観光客と言える。（資料編 P23）

土産・買物・飲食で3,000円以上利用した人の割合



地元を離れたがらない 豊富な労働人材

愛知県は高校生の地元大学進学率と大学生の地元企業進学率が全国1位であり、およそ9割の学生が地元企業に勤務する。地域内には多くの世界的頭脳を輩出する名古屋大学を中心とする特色ある大学が立地し、優秀な人材が暮らしやすい地元に残る傾向が強い。（資料編 P39）

仮説2) 週末はシャチホコ天?!

ナゴヤとシブヤ

2027年めがけて再開発にひた走る街が、日本にはもう一つある。東京都渋谷区、渋谷駅周辺だ。日本の主な都市にある12駅の駅勢圏をいろんな角度から比較分析したデータによると（駅勢圏とは鉄道駅を中心に半径1km圏内のこと、念のため）、名古屋駅勢圏と渋谷駅勢圏に共通点がでら多い、というではないか。どんな点かって？それは、どっちの街も

- | | |
|---------------|------------------------|
| ①人口の集中度は中密度 | ⑤住宅は低層が多い |
| ②人口の高齢化が進んでいる | ⑥事業所や店舗の集積は中密度 |
| ③通勤通学人口は若者が多い | ⑦先端産業の集積が進んでいる |
| ④シングル世帯が多い | ⑧2027年に向かって大規模再開発が進行中! |

ということで、成長途上の「未来ターミナルグループ」に位置づけられるのだ。さらには地形的にも、入り組んだ路地が多い点、新しい都市空間と昔ながらの町並みが共存している点でも似通っている。確かに道が「碁盤の目」みたいで分かりやすいと言われる名古屋市内にあって、名古屋駅界限に限っては道がごちゃごちゃといりくんでいて、方向音痴さんにはなかなかの「巨大迷路」らしい。一方渋谷も駅周辺から道が放射状にのびていて、一筋間違えると目的地からどんどん遠ざかる「魔境」と言われ、なんとなく似ていなくもない…気がする。

そういえばナゴヤとシブヤ、街の名前もなんとなく。「渋谷駅にできることはメーエキにもできるて!」と考えることで、名古屋駅の未来予想図がリアルに見えてくるのである。

メーエキの課題

渋谷駅とよ一似とる、と判明した名古屋駅だが、メーエキにはメーエキの課題がある。あまり気はすすまないが列举してみよう。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| ①クルマ社会に起因する歩行者導線の分断 | ④プレイヤーのコンテンツ発信がまだまだ不足 |
| ②街のアクティビティを上げる世代の居住が少ない | ⑤ステレオタイプな地域ブランド |
| ③情報・案内インフラの整備不足 | |

…なんだかえらい言われようだがや、と憤ることなかれ。課題が見えたなら解決も近いのだ。わが名古屋駅の課題に僕は向き合う。うん。

まず①は歩いてみればなるほど、だ。JR名古屋駅とその線路で街が東西にばっくり分かれ、ささしまライブエリアには東西どちらからも歩いて行きにくい。名古屋駅から東にのびる3本の大通り、桜通・錦通・広小路通も街を分断している。新しくなった御園座で話題の伏見やレトロ感いっぱい円頓寺など、ちょっと週末デートでも、っていうスポットはちょこちょこあるのに、それぞれが文字通りスポット（点）で存在していて歩行者導線がない、つまり「ぶらぶら歩いたら着いてまったね」という風にはなりにくいのである。

②はアクティブで消費が旺盛な30代～50代の人が少ないってこと、③は広大な地下街はあるが階段が地上への「バリア」になり、表示もわかりづらいってこと。そういう小さい頃、地下街を探検してそのまま迷子になったなあ。④はメーエキで商売しとる人、まっとう消費者にアピールしんと、ってこと。問題は⑤だ。辛辣な言い回しだなあ。

調査によれば、よそからくる人の、名古屋のイメージは「名古屋めし」「コマダ」「赤味噌」、つまり食べ物系に偏っていて、そのうち飽きられる危険がある。新しい魅力を発信しなかないのじゃない?ということ。…まあ、そうかもね。

全国12駅勢圏 (資料編 P9)

1. 東京駅 2. 品川駅 3. 新宿駅
4. 渋谷駅 5. 池袋駅 6. 横浜駅
7. 名古屋駅 8. 栄駅 9. 梅田駅
10. なんば駅 11. 博多駅
12. 天神駅

全国12駅のグループ化 (資料編 P28~)

各駅の半径1キロ圏のデータを用いて18種類の散佈図を作成し、過半数である10種で類似性があった2駅間に「類似性」があると判断。

①巨大ターミナルグループ

【東京駅、新宿駅、梅田駅】
昼夜間人口比率が高く事業所や店舗の集積度が高く成長性も高い、グローバル水準の繁華街

②職住近接大規模ターミナルグループ

【梅田駅、なんば駅】
事業所や店舗の集積度が高く、居住者に高齢者や子どもが少なく働き盛り世代の居住者が多い

③シングル・ヤング遊住ターミナルグループ

【なんば駅、天神駅、博多駅】
賃貸マンションに住む20歳代を中心とした現役世代が多く人口が稠密な駅勢圏

④ファミリータワーマンションターミナル

【品川駅、横浜駅、博多駅】
持ち家が多くファミリー世代が多く居住し、ターミナルでありながら永住型の住宅地としての性格が強い

⑤未来ターミナルグループ

【渋谷駅、名古屋駅】
人口の高齢化が進出しシングル世帯が多く住宅は低層。居住人口は高齢化が進展する一方で通勤通学人口は若者が多く、先端産業の集積が進んでいる成長途上の街

※栄駅、池袋駅は類似ターミナルなし

名古屋駅半径1km圏のストリーットの状況 (資料編 P30)



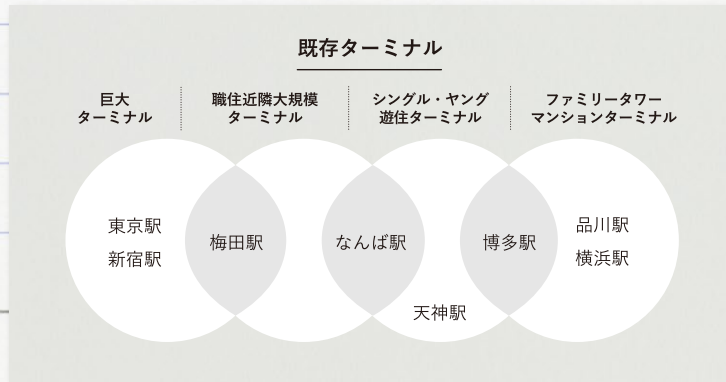
渋谷駅半径1km圏のストリーットの状況 (資料編 P30)



⑤未来ターミナルグループ (資料編 P29)



①~④既存ターミナルグループ (資料編 P29)



仮説2) 週末はシャチホコ天?!

だけど、未来ははじまっている。

課題はわかった。しかし、メーエキは立ち止まってるわけじゃない。その証拠に、僕ら世代にとってもちょっと面白いスポットが、この頃目立ち始めている。頼もしいことに、ついさっき課題①に挙げた「歩行者導線の分断」を乗り越えて、**点と点がつながりはじめている**のだ。例えば**柳橋中央市場**。昼どきに魚の匂いを嗅ぎつつも足を踏み入れると、昔ながらのラーメン店や、カウンターがおしゃれな天ぷらとワインの店などなど、一通り制覇したくなる店々が並ぶ。そこから**泥江町、花車ビルを経て円頓寺商店街や四間道**まで足を伸ばし、昔ながらの風情にひたったり。円頓寺商店街の古い喫茶店や定食屋もいよいよ、例の有名なたまごサンドなんて、それだけのために行く価値のあるおいしさ。あー思い出すと食べたくなる今日行こうかなあ。…と、ポイントはそこまでの道に小さくて面白い雑貨店なんか次々できていること。

メーエキから**納屋橋を通過して伏見の方へ行く道**も、どんどん面白くなっている。堀川沿いについてみたくなる飲食店が並んでるし、食やお酒がらみのイベントもちょいちょいあって、サブカルっぽい雰囲気がおしゃれだし楽しいよなーと思う。あとは、大学やテレビ局があって、ビジネス目線でもカルチャー目線でも最先端で面白いのに、いかんせん離れ小島な感がある**ささしまライブエリア**と、どうつながるか。名駅西のエリアも駅西銀座やレトロな映画館なんかあって面白いんだから、ほんとに、エリアとエリアをつなぎさえすれば、メーエキを中心に、もっと面白くなるはずなんだて、名古屋って街は。

週末はシャチホコ天?!

てわけで、ようやく仮説2) にいたる。お待たせしてすみません。名古屋駅近辺で芽吹きはじめた、いわば**「新ストリート文化」**を上手に育て、エリアとエリアをつなぐ導線をうまくつくって、さらに、全国に発信して行けばどうなるか。そう。

「全国から名古屋にくる人が増える」→「名古屋駅を中心にウロウロ歩き回る（専門用語で‘回遊する’）人が増える」→「グルメの店や小売店などが増える」→「名古屋新名物もゾクゾク誕生する」→「大通りでイベントなんかもやってみよまい」→「土日は人がどえらいことになるで」→「休みの日は歩行者天国にしよまい」→「クルマ以外の移動手段も取り込まなかんね」。

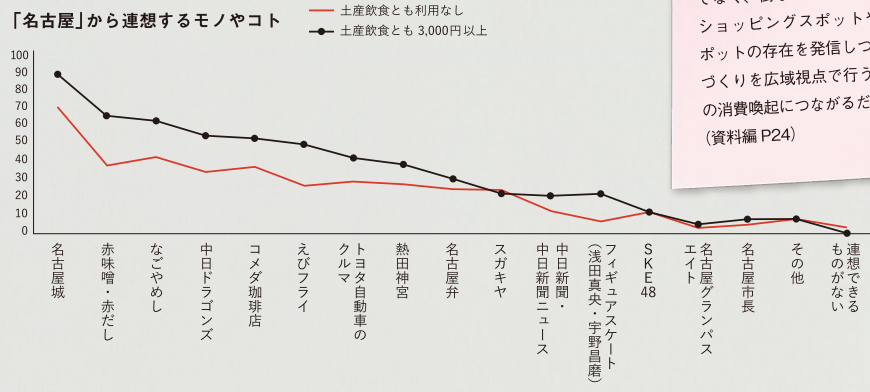
リニア新幹線が開通し東京から40分ともなれば、全国いや全世界から、観光&街歩き目的の来名者がどれだけ増えるか想像もつかない。いつしか全国でも類を見ない広域歩行者天国が開催されないとも限らない。ネーミングは当然「シャチホコ天」だ。となれば、巨大天むす「シャチホコ天」が、新たな名古屋グルメになったりしてね。ああ、ワクワクが止まらないじゃないか。

ちなみに、名古屋駅と多くの類似点がある**渋谷駅では、大手百貨店などを中心に官民一体になった街の盛り上げ策が進行**しており、年間を通じて様々なイベントが行われているという。そこで暮らす人、そこにくる人、人々の発信力にも、学ぶところは多そうだ。例えばたまごサンドを食べたなら、新しいグルメや魅力をこの街で見つけたなら、僕もあなたもSNSにアップしまくろう。大きなビジョンも、街を愛する僕らの一歩からはじまるんだ。

首都圏・近畿圏
観光客自主調査

2017年
電通名鉄
コミュニケーションズ
(資料編 P23~)

「名古屋」から連想するモノやコト



名古屋のモノ・コトに対するイメージの想起率では、「赤味噌・赤だし」「特色のある食べ物」が高い。駅構内や周辺だけでなく、街なかのストリートやなごやめしスポットの存在を発信しつつ、今後のまちづくりを広域視点で行うことが、来訪者の消費喚起につながるだろう。
(資料編 P24)

名古屋の
地下街の概況

(資料編 P22)

地下街は天候に左右されずいつも快適にショッピングや飲食が楽しめる一方で、環境面の差別化が難しく、特に旅行者等の名古屋駅に慣れていない訪問者の街歩きを難しくしている面も。



名古屋駅街区の
近年の変貌

(資料編 P21)

名古屋駅街区の今後の街づくりに際し、①物理的分断の激しい駅前エリアにおける南北導線、②特に鉄道にも分断されているささしまライブへの導線と三蔵通りとの結節点となる下広井地区、③駅コンコース以外での街の東西導線の整備などは、官民一体となった取り組みを行うことにより、名古屋駅が駅勢圏全体、さらには隣接する街区を巻き込んで発展していく起爆剤となるはず。

仮説3) 観光客数が全国1位に?!

どうなる、インバウンド総選挙

「ニッポンノカンコウチトイエバ?」「キョウトデショ」あなたがまだそんなイメージを抱いているとしたら、はっきり言おう「オクレトッテカンテ」。

2017年の外国人訪問数の都道府県別ランキングを見ると、いや見るまでもないが、東京都がダントツ1位。2位は大阪府、3位は千葉県ときて、京都府は第4位。千年の都を下に見るとは、恐るべし某魔法の王国といえるだろう。名古屋市を有する愛知県は第9位。鹿と大仏の最強タッグを観光資産に持つ奈良県に勝ってるんだから健闘しているといいたいところだが、満足してはいられない。大阪の例があるからだ。

2016年の同ランキングで大阪は第3位。2017年に千葉を逆転して第2位になった。インバウンド観光客増加率はなんと世界一、トップオブザワールドちゅうからどないなってまんねんしかし。そのおかげか地価は上昇、経済効果もウッハウハ。愛知も負けてはいられない、いやいや悪いが勝たせてもらう。

リニア中央新幹線の名古屋駅オープンは2027年。リニアの路線が大阪まで延びるのは早くも2037年、遅くも2045年とか。東京と名古屋を結ぶリニアメガ地域が誕生すれば、外国人訪問者数で愛知県が大阪を抜く日はリニア並みの超高速でやってくるはず。

それまでに、大阪の街づくりを真摯に見習い、無線LANの提供や案内表示の多言語化、情報発信力の強化などなど取り組む課題は山積みだ。インバウンド観光客の要望は調査データからすでに明らか。あとはやるだけ、そうすれば、インバウンド総選挙のトップは文字通りニッポンのセンター・愛知がもらうことになる。

うなぎのぼりの観光客数

愛知県から名古屋市にフォーカスを絞ってみよう。市が公表しているデータによれば、名古屋市の観光入込客数（観光客全体の延べ訪問人数）は年々順調に増加中だ。

アーティストの全国縦断ツアーが名古屋でだけ行われないうという「名古屋とばし」をはじめ数々の「文化観光不毛の地」呼ばわりに耐えてきた皆さん、もう大丈夫です、ご安心ください。久屋大通庭園フラリエの開設、東山動物園のイケメンゴリラ、あいちトリエンナーレに名古屋城の本丸御殿…。毎年楽しい話題を振りまいてきた努力は、ちゃんとメディアの目にとまり、全国の皆さまに届いています。観光客数はすでにうなぎのぼりです、ひつまぶしが名物だけに。

全国1位が見えてきた

前述のように、愛知・名古屋は上り調子だ。これで諸々の努力が実を結び、リニア中央新幹線が開通の日を迎え、仮説2)のシャチホコ天が仮説じゃなくなったら? 真面目な話、観光客数日本一どころか世界一になってしまうかもしれない。名古屋はもともとポテンシャルの高い街だ。

近畿圏・首都圏のどちらにもアクセス抜群。南は九州、北は北海道まで数時間。セントレアから世界30都市までひとつとび。名古屋を起点とする観光モデルコース「昇龍道」は、今や世界的な人気を博しつつある。

すでに国内外のどこに行くにも、どこから来るにもめっちゃめっちゃ近い街、名古屋。降り立った名古屋駅界隈が、通り過ぎるにはもったいない魅力を放つように進化を続けられれば、様々な人種年齢性別…の人々が入り混じる一大観光都市が生まれるだろう。

外国人訪問数ランキング

出典 / 観光庁「訪日外国人消費動向調査」()内は回答者数

2017年 1月~12月

- 1位 東京都 (17,880)
- 2位 **大阪府** (14,658)
- 3位 千葉県 (14,205)
- 4位 京都府 (9,938)
- 5位 福岡県 (4,793)
- 6位 神奈川県 (3,259)
- 7位 北海道 (2,947)
- 8位 沖縄県 (2,784)
- 9位 **愛知県** (2,748)
- 10位 奈良県 (2,505)

回答数 40,213 (複数回答可)

2016年 1月~12月

- 1位 東京都 (18,009)
- 2位 千葉県 (15,123)
- 3位 **大阪府** (14,274)

回答数 39,956 (複数回答可)

2015年 1月~12月

- 1位 東京都 (19,443)
- 2位 千葉県 (16,685)
- 3位 **大阪府** (13,082)

回答数 39,783 (複数回答可)

大阪府は愛知県の約3倍以上の観光客を有し、2年連続インバウンド観光客増加率世界一になった上、インバウンド効果から地価上昇率が非常に高く、インバウンド観光客によって地域経済全体が活性化している。

※「数字で見る大阪府の国際化 / 大阪府」
「急成長渡航先ランキング / マスターカード」より
(資料編 P26)

名古屋市 観光入込客延べ人数

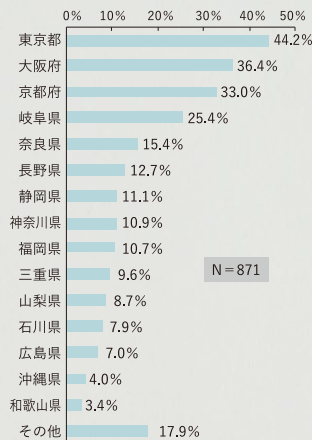
出典 / 平成28年度名古屋市観光客・宿泊客動向調査

- H 26年度 67,015,842人
- H 27年度 68,436,597人
- H 28年度 70,435,643人

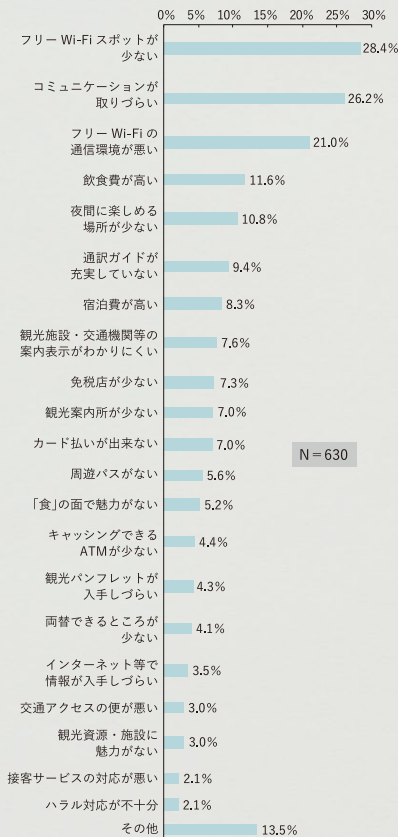
愛知県訪日外客動向調査 (2017年)

(資料編 P26、27)

愛知県に来る前の訪問先



不満に感じた点



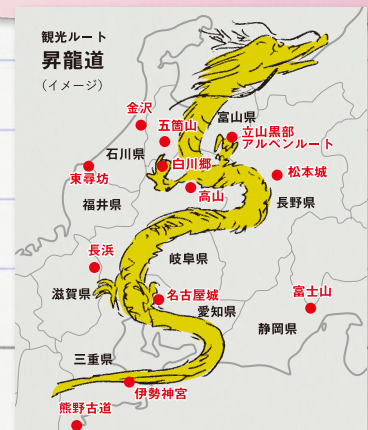
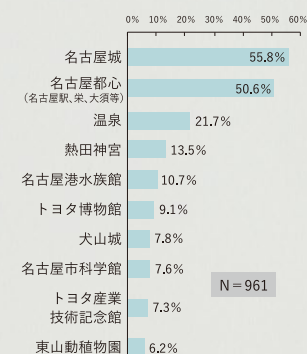
国内・海外からの アクセスの良さ

名古屋は日本全国とのアクセスが非常によい。海外へは電車で30分弱の中部国際空港から世界の30都市に週300便以上が就航し、名古屋駅に到着したインバウンド観光客の視点で見ると、昇龍道(下図)の南端の賢島まで2時間強、北端の金沢まで2時間半であり、多くの昇龍道内のスポットへ2時間以内でアクセスできる。

リニア中央新幹線が開通した際には、名古屋を中心とした時間地図はさらに縮小し日本や世界のあらゆる地域に短時間でアクセスできる拠点となる。

(資料編 P39)

愛知県の訪問先(上位10地点)



仮説4) 名古屋から世界を変える発明が?!

再び、シブヤに学ぶ

「クリエイティブ・クラス」という言葉をご存知だろうか。トロント大学経営大学院教授リチャード・フロリダによって「価値を新しく作り出す人」と定義され、先進国経済をこれから担うと想定される階層を指している。僕自身はざっくり「AI やロボットに取って代わられない仕事に就く人々、AI を利用する側の人々」と解釈しているが、かといって必ずしも一握りの天才を指すのではない。クリエイティブ・クラスには例えばお笑い芸人、エンターテイナーにアーティスト、学校の先生、エンジニア、デザイナー、医師などなど、今も身近でイメージしやすい職業も含まれている。

重要なのは、そうした人々は所得獲得能力が高く、21 世紀の地域経済を発展させる原動力と言われていた点だ。このクリエイティブ・クラスを呼び込むことを明確な目標にして再開発をぐいぐい推し進めているのが、お察しの通り、名古屋とやたら共通点が多い街・渋谷である。官民一体となって多様性に満ちた個性的なグローバルタウンを目指し数々のプロジェクトを進行中で、2018 年秋に誕生する超高層複合ビルには誰もが知る世界企業の入居が既に決定済み。同じく 2018 年秋、周辺の代官山には宿泊者だけでなく街の人やオフィスワーカーも利用できるホテルがオープン予定。色々な人々が入り混じる拠点が次々とできる、すごいね、シブヤ。

クリエイティブゾーン・メエキ

クリエイティブ・クラスにとってその街に住み、その街で働く魅力とは何か。キーワードはストリート文化、その街ならではの賑わい、快適な暮らし。渋谷にならって名古屋駅周辺からもこうした魅力を発信し、地域発展のカギを握る**クリエイティブ・クラスの人々に選ばれる街**になる。それこそが、リニアメガ地域誕生に向けた名駅再開発プロジェクトのコンセプトとしてふさわしいと言えるだろう。名づけるなら「CREATIVE ZONE MEIEKI PROJECT」。既に述べたとおり、柳橋、ささしま、円頓寺など、クリエイティブ・クラスが好むストリート文化は名駅周辺で芽吹きつつある。歩行空間のネットワークでそれらを結べば名古屋駅勢圏が拡大し、渋谷を彷彿とさせる「**グレーター名駅**」が誕生する。その全容イメージは、この次の次の次のページを参照されたい。

世界を変える発明が?!

2027 年にリニア中央新幹線が開通し東京から名古屋までが一体化したりニアメガ地域となり、東のシブヤ・西のナゴヤが、クリエイティブ・クラスが集う両拠点に。もともと愛知県には高い技術力を誇るものづくり産業が集積しており、優秀な人材も豊富だ。そこに、面白いこと、新しいことに目がなくて柔軟で豊かな企画発想力を持つクリエイティブ・クラスの頭脳やスキルが加わったら、どんなことが起こるだろう。

AI や IoT をベースに、誰も見たことがない、未来を変えるような「何か」が名古屋で作られても不思議じゃない。人が想像したものは、必ずカタチになるという。人類が夢見ている、今はまだカタチになっていないモノ。タイムマシン? それとも、みんなが知っているネコ型ロボット? そんなモノが世界で初めて開発されるのは、やっぱりここ名古屋において他にないんじゃないだろうか。あなたもそう思いませんか?

仮説5) いっそ首都移転?!

～むすびにかえて～

国土交通省のホームページによれば、
 内閣総理大臣の諮問機関である「国会等移転審議会」が、
 国会等の移転先候補地等について答申を出したのが、平成11年12月。
 西暦で1999年、今(2018年)から19年前のことだ。
 「国会等移転」は「首都機能移転」ともいい、
 三権(立法・行政・司法)の中核機能を東京圏外の地域に移転することをいう。
 (ちなみに、首都の機能を移転するんであって、
 首都そのものを移転するとは書かれていない…んだけどね。)
 この19年前の答申で、北東地域の「栃木・福島地域」と
 東海地域の「岐阜・愛知地域」が移転先候補地に選定されている。
 なぜ「岐阜・愛知地域」が選ばれたのか。その理由は、

『中部国際空港が開港し、将来新たな高速交通網が通過することになれば、
 新都市および名古屋は、国際面を含め、大幅に飛躍することが期待されます。
 (出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/relocation/qa/qa_step3_02.html)』

なんとなんと。まさにときたる、じゃないか。
 何度も繰り返して恐縮だが、2027年にリニア中央新幹線が開通し、
 東京から名古屋までをまるごと含む「リニアメガ地域」が出現する。
 名古屋駅はリニアメガ地域の西の拠点「**グレーター名駅**」に。
 一大観光都市にして、世界中からクリエイティブクラスが集まる街に。
 首都機能を担う条件を満たしてあまりある。
 盛り上がっては盛り下がる、を、繰り返している首都移転の議論けど、
 リニア開通で今度こそ大きく進むかもしれない。
 名古屋人としては「バッチコイ」だ。

これまで、2027年に向かって我らが愛する名駅境界がどう変貌し、
 それによって名古屋という街がどんな風が変わっていくのか、
 未来予想を展開してきた。大げさな部分もあったかもしれないが、
 資料に基づくものであり、けっして勝手な想像をふくらませただけではない。
 真面目に考えをめぐらせ、真面目に述べてきたつもりだ。

ここに書かれたことが現実になるかどうか、本当のところは、わからない。
 でも、現実にならないとも限らない。わからないから未来は面白いのだ。

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。
 読んでくださった方なりに名駅の未来を予測していただければ、
 こんなに嬉しいことはありません。それでは、2027年を楽しみに…。

名駅の再開発のありたき姿 (資料編 P43)

様々な人々が行き交う駅前エリアはシニアや女性 / 子供の方々始め、交通弱者を中心に次世代パーソナルモビリティの体験機会の場として展開

メーカーのショールームや次世代技術展示なども用意し、市道部分の入口で新都市交通システムを理解いただくエリアとして展開

情報発信システム、訪問者管理 / マーケティングシステム、新エネルギーシステム他訪問者へのサービスシステムのノウハウを共有展開



- 訪問者の今後の足として、新交通システムをご利用いただく「生きた実証実験」として自動走行型ミニバスを展開
- ストリートイベントの仕込



